



特定非営利活動法人 海苔のふるさと会 会報

大森 海苔のふるさと館 ニュース 11号

現代の江戸前海苔づくり

今年4月の「棒抜き作業」に続き、千葉県市川市三番瀬の若き海苔漁師の福田武司氏のご厚意で今回9月23日（祝）の「海苔の種付け作業」を実際に体験させていただきました。

行徳漁業共同組合前に6時集合で福田さんをはじめ、ご家族や他の海苔漁師さんたちは既に朝3時に現場入り。

当日は秋晴れの中での作業となった。

朝方は少し涼しかったものの日中は汗ばむ陽気となった。



海はとても静かな状況、つまり“凧（なぎ）”の状態です。船に揺られると眠気に襲われるほどだ。

江戸時代から始まり広まった海苔養殖。

現在は江戸時代とは比べものにならないぐらい技術が進み、同時に作業量も増し、海苔漁師への苦労と負担は江戸時代当時から変わらないものなのだろう。

いやそれ以上に労働力は増えているように強く感じられる。

福田さんからも「海苔漁業の継続的な取材を行って欲しい」との強い要望もあり、現代の海苔養殖事情の1年を追っていきたく考えている。（高橋）



よみがえる大森の海苔づくり

約50年前に終了した大森の海苔生産。かつて、日本一の生産量・生産高を誇った大森の海苔養殖を復活させるプロジェクトが「ふるさとの浜辺公園」にて行われています。その名も「アサクサノリ生育観察」。昭和の時代に漁業権を放棄しているため、「生産」としてではなく、「後世への継承」としての活動です。

網ヒビ（海苔を付着させる網）を海に張り、海苔



を採り、海苔をつける。昭和の時代に行われていた作業が蘇ります。今年は網ヒ



ビだけではなく、竹ヒビも建てました。干潮時の浜に行けば、竹ヒビを近くで見ることができます。

元海苔生産者の協力を得て行っているため、当時のいろいろな話を聞けます。

「ベカブネ（海苔採り用の小舟）は船尾を前にして進む時もあるんだ」

「網はたるませて張らないと海苔は育たない」
 など、貴重な話がたくさん。浜で作業をしている男たちを見かけたら気軽に声をかけてください。私たちのように、貴重な話が聞けますよ。（りょう）

のり/り!! ミュージアム・グッズ

「おみやげに海苔を買いたい」というお客様の声にお応えして、11月から海苔の販売が始まりました。

海苔を深く知るためのブックレット「海苔物語」、海苔の風物詩を伝える絵はがきセット「海苔の浮世絵」、大森本場乾海苔協同組合さんが自信を持ってお勧めする「おみやげの海苔」、海苔の三部作がそろいました。

ご来館の記念として、お土産として、ご利用ください。(幸子)



「旬」がまるごと(ポプラ社) 一月号に海苔特集

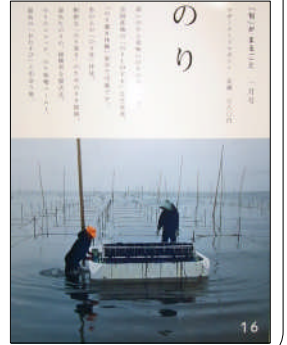
この雑誌は、その時々「旬」の食べものを掲載する雑誌ですが、今月号で「のり」の特集をしています。

その中で、体験学習「海苔つけ体験」が載っています。

催しの内容が順序よく綿密に取材され、臨場感が伝わってきます。

館のライブラリーにありますので、ぜひ、ご一読を!!

(宮川)



今月の一枚 ~PHOTO~

この写真は、雑誌『主婦の友』(昭和7年9月1日主婦の友社発行)付録の絵はがきです。

河岸に竹ヒビがうずたかく積まれ、係留されたベカブネの向こうに、ガスタンクが写っています。

大森町外れの風景として紹介され、海苔の名産地の風景が、京浜運河計画によって近く消滅してしまうのは惜しまれると書かれています。

一旦は、時局によって漁業権放棄が決定したのですが、資金不足によって計画は白紙。戦後、再び大森に海苔の風景が戻って来たのです。(まこ)



協力者会とサポートスタッフ

~館の活動を支える人々~

いつもイベントで海苔の指導をしてくださっているのは、地元の元海苔生産者の「協力者会」の方々です。材料調達や道具作りなど、準備段階でも年間を通してご協力をいただいています。

また、サポートスタッフ「はまどの会」の方々も、海苔のことを学び、それを活かしてイベントの補助をしてくださっています。

サポートスタッフのための学習会では、協力者がいつもと違った厳しさで、熱のこもった指導をしてくれました。ちょっとぶっきらぼうな海の男たちですが、“教えがいのあるヤツには熱意で答える”という愛情を感じます。

先日は、舟に乗って海苔網を見に行くチャンスがあり、思わぬ体験に皆の気分も盛り上がりました。

人と人が集うことで、可能性は広がって行きます。この楽しさが、更に多くの人に広がって行くことを願っています。(まこ)



✿ コラム

昔、このあたりで養殖されていた「アサクサノリ」の育ちやすい環境は、海水と淡水の混ざる汽水域で、遠浅の海であることです。

東京湾はいくつかの川が流入し、海苔の育ちやすい汽水域です。また、当時の大森の海は遠浅の海が広がり、干潟がたくさんあったようです。今は整備され、干潟の数も少なくなりましたが・・・。

「大森の海岸から千葉がうっすらと見えただよ。」と元海苔生産者が語っていました。今の海とはまったく別の姿だった大森の海。その海を一度でいいから眺めてみたいものです。(りょう)

特定非営利活動法人 海苔のふるさと会会報「大森海苔のふるさと館 ニュース」11号

平成21年12月1日発行
編集・発行 特定非営利活動法人 海苔のふるさと会
連絡先 東京都大田区平和の森公園2番2号
TEL 03-5471-0333
FAX 03-5471-0347